

地域科学部

I	教育水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、地域科学部が掲げる教育目的に沿って学科が設置され、教員が配置されている。教員一名当たり学生数は 9.47 名であり、大学設置基準を大きく上回る専任教員数が確保されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育の目標や内容、成果はカリキュラム検討委員会及び将来計画委員会において常に検討され、また教育の状況や活動実態は教務厚生委員会によって点検されている。年度末には各教員は自己評価によって授業の質的向上を図ったか否かを自己点検するよう義務付けられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、地域科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養教育から専門教育に至る教育課程は体系的に編成されており、授業科目も学部の教育目的に沿って適切に配置されている。各コースで履修

モデルを作成し、組織的な履修指導を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他学部の科目履修を認め、編入生に対しては既修得単位を認定し、社会人学生に対しては長期履修制度を適用しており、インターンシップも積極的に実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、地域科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実習、実験及びセミナーから構成される授業形態はバランスが取れており、少人数授業、対話討論型授業、フィールド型授業、情報機器の利用及びティーチング・アシスタント（TA）の活用によって学習指導法の工夫がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、新入生ガイダンスや学年別ガイダンスによって組織的な学習指導が行われ、シラバスに従った予習や課題レポートの事前提出及び授業時間後のレポート提出によって授業時間外の学習が促進されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、地域科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業率、就職率、進学率及び就職先はそれぞれおおむね良好であり、学業成果は卒業生の成績において優と良の合計が 80% を超えており、卒業生の 25%が社会調査士の資格申請を行なっているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生を対象として行なわれた教育内容、教育方法、達成度及び満足度に関するアンケート調査によれば、おおむね満足という結果になっている。また、「4年間の学習について」の満足度もおおむね良好であり、不満に感じるのは「自分の努力不足」のためと 78.5%の学生が回答しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、地域科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の就職率は 98.1%と良好であり、当該学部が養成しようとする人材像に適した進路及び就職先となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生や就職先企業に対して行なわれたアンケートによれば、教育の成果や効果はおおむね上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、地域科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。